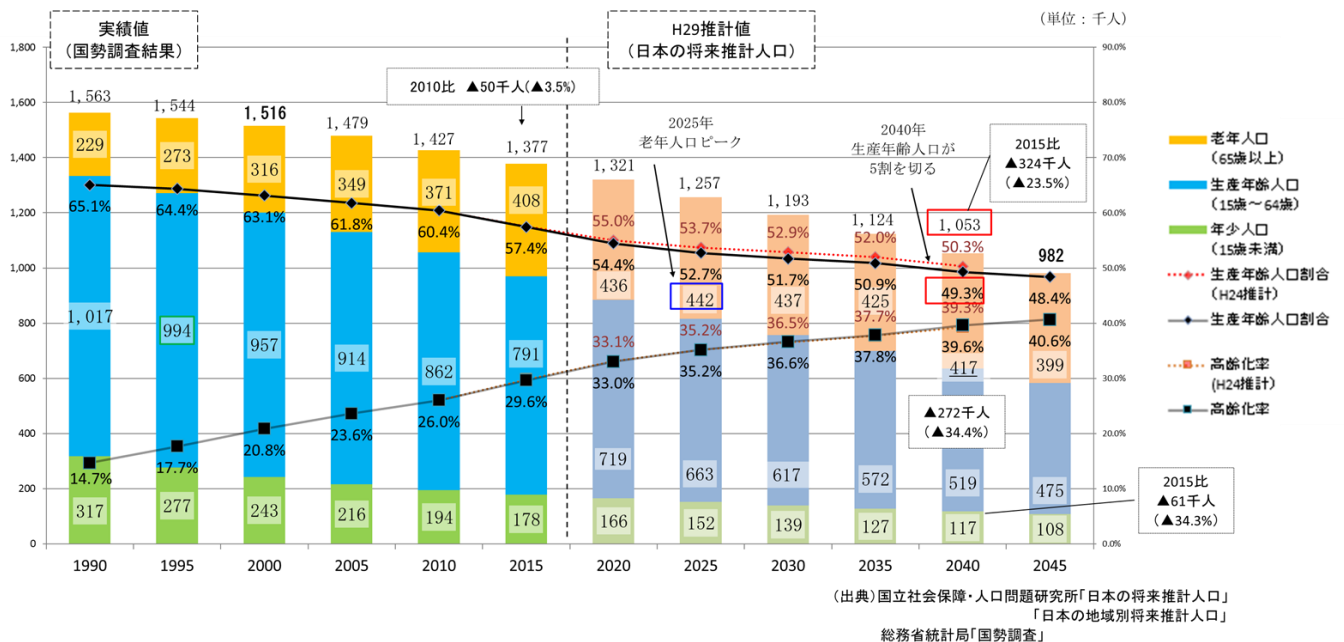


### III 長崎県の人口推移と将来推計

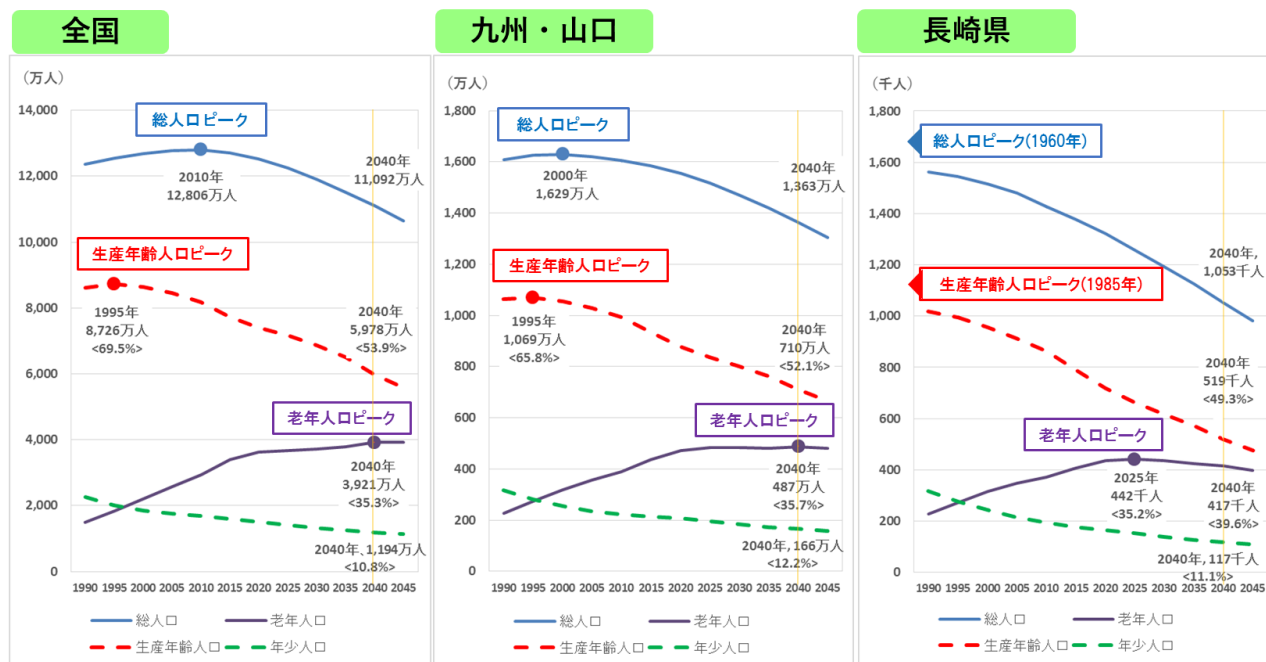
- 以下の図は、長崎県の人口推移、将来推計を示したものである。
- 長崎県においては、国よりも早く老年人口もピークを迎えることが予想されている。
- 長崎県の総人口は1960年にピークを迎え、2015年の1,377千人に対し、2040年には1,053千人(▲324千人)まで減少することが見込まれている。
- 老年人口は、国が2040年にピークを迎えるのに対し、国より15年も早い2025年にピークを迎える。
- 生産年齢人口は1985年にピークを迎え、その後国より早いスピードで減少、2040年には全体の5割を切るが見込まれている。

長崎県の人口推移、将来推計



- 下図は、全国、九州・山口（以下、「九州等」という）、長崎県の総人口及び年齢別3区分の人口の推移を比較したものである。
- 総人口は、全国は2010年、九州等は2000年にピークを迎えたのに対し、長崎県は1960年にピークを迎え、減少のスピードも早い。
- 生産年齢人口は、全国、九州等は1995年にピークを迎えたのに対し、長崎県は1985年にピークを迎え、減少のスピードも早い。
- 老年人口は、全国、九州等は2040年にピークを迎えるが、長崎県は15年早く2025年にピークを迎える。

全国、九州・山口、長崎県の人口の推移<比較①>



- ・長崎県の総人口：約105万人（2040年）
- ・長崎県の老年人口：2025年にピーク ⇒ 2040年には全人口の約4割へ
- ・長崎県の生産年齢人口：2040年には総人口の5割を下回り人材不足が深刻化する。

- 下表は、全国、九州等、長崎県の年齢別3区分の人口の占める割合や2015年から2040年の増減数及び増減率を比較したものである。
- 総人口の減少率は長崎県▲23.5%（国▲12.7%、九州等▲14.0%）に比べ高く、2倍近くになっている。
- 老年人口は、長崎県は2025年にピークは過ぎているが、占める割合は長崎県39.6%（国35.3%、九州等35.7%）が依然高いものとなっている。
- 生産年齢人口は、減少率は長崎県▲34.4%（国▲22.6%、九州等▲23.9%）に比べ、大きく、また占める割合も長崎県49.2%と5割を切る見込みとなっている。（全国、九州等は5割以上）

全国、九州・山口、長崎県の人口の推移<比較②>

		全人口に占める人口数及び割合		
		2015年	2040年	増減（2015年比較）
全 国	総数	12,710万人	11,092万人	▲1,618万人（▲12.7%）
	年少人口	1,595万人 【12.5%】	1,194万人 【10.8%】	▲401万人（▲25.1%） 【▲1.7%】
	生産年齢人口	7,728万人 【60.8%】	5,978万人 【53.9%】	▲1,750万人（▲22.6%） 【▲6.9%】
	老年人口	3,387万人 【26.6%】	3,921万人 【35.3%】	+534万人（+15.8%） 【+8.7%】
九 州 ・ 山 口	総数	1,585万人	1,363万人	▲222万人（▲14.0%）
	年少人口	215万人 【13.6%】	166万人 【12.2%】	▲49万人（▲22.8%） 【▲1.4%】
	生産年齢人口	933万人 【58.9%】	710万人 【52.1%】	▲223万人（▲23.9%） 【▲6.8%】
	老年人口	437万人 【27.6%】	487万人 【35.7%】	+50万人（+11.4%） 【+8.1%】
長 崎 県	総数	1,377千人	1,054千人	▲323千人（▲23.5%）
	年少人口	178千人 【12.9%】	117千人 【11.1%】	▲61千人（▲34.3%） 【▲1.8%】
	生産年齢人口	791千人 【57.4%】	519千人 【49.2%】	▲272千人（▲34.4%） 【▲8.2%】
	老年人口	408千人 【29.6%】	417千人 【39.6%】	+9千人（+2.2%） 【+10.0%】

総人口

減少率は長崎県▲23.5%（国▲12.7%、九州等▲14.0%）に比べ、倍近い

老年人口

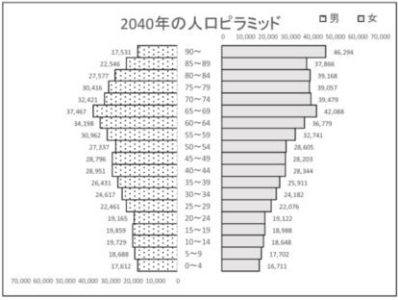
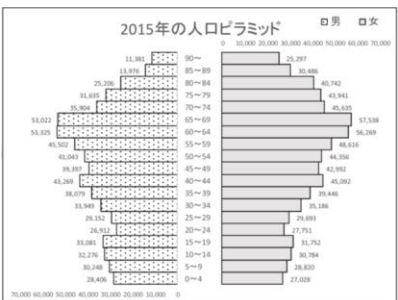
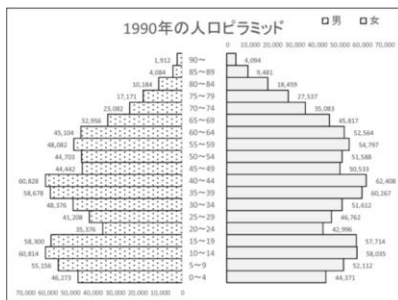
ピークは過ぎているが、占める割合は長崎県39.6%（国35.3%、九州等35.7%）が依然高い

生産年齢人口

減少率は長崎県▲34.4%（国▲22.6%、九州等▲23.9%）に比べ、大きい  
占める割合も長崎県49.2%と5割を切る（全国、九州等は5割以上）

- 本県の人口構成は、年代ごとの推移で見ると、1990年は、「ひょうたん型」であったのが、2015年には、中心部が「くぼんだ釣鐘型」に推移している（下図のとおり）。
- 今後は、出生数の減少で裾は年々狭まり、女性の長寿命化により、2040年には90歳以上の女性が突出し、いわゆる「棺おけ型」の人口構成になっていく。

長崎県の2040年頃の各年代の人口構成



- 下表は、長崎県内の2015年から2040年までの人口増減率の推計であるが、すべての市町で人口が減少することが予想され、特に離島・半島地域については減少率が多い。
- なお、下線（赤字）の市町は、2040年の人口が下位の人口区分に変動する団体である。

1-3 人口段階別市町村の変動（2015→2040）【H30推計】

人口規模	人口増減率(2015年→2040年)						
	増加	～▲10%	～▲20%	～▲30%	～▲40%	～▲50%	～▲60%
50万人以上							
20～50万人			佐世保市 (255→212)	長崎市 (430→333)			
10～20万人			諫早市 (138→113)				
3～10万人		大村市 (93→91)	長与町 (43→37)	島原市 (45→34)	<u>雲仙市</u> (44→28)	<u>平戸市</u> (32→18) <u>対馬市</u> (31→16) <u>五島市</u> (37→21) <u>南島原市</u> (47→28)	
1～3万人		(30→24) (15→12) (14→12)	時津町 波佐見町 佐々町	川棚町 (14→10)	松浦市(23→14) 壱岐市(27→16) 西海市(29→18)	<u>新上五島町</u> (20→9)	
1万人未満					東彼杵町 (8→5)		小値賀町 (3→1)

※下線（赤字）は2040年の人口が下位の人口区分へ変動する団体

※カッコ内の数字は、人口（千人）の推移